

一里塚跡

江戸時代には、金刀比羅神社前の街道両脇に、日本橋より七つ目の一里塚が置かれていました。

一里塚とは江戸の日本橋を起点として一里(約四キロ)ごとに置かれた塚のことです。

下の図の中ほど、街道北側に、その姿が描かれています。土盛の上には桜が植えられた大きなものでした。

現在の金刀比羅神社の鳥居横あたりが、その塚跡といわれています。

三宝寺

三宝寺で忘れてはならない人物として、嘉永四年(一八五二)に住職になった、第二二世住職弁玉和尚がいます。

和歌の長歌を橋守部に、短歌は岡部東平に学んだ弁玉は、江戸末期から明治初期にかけて活躍した歌人でもあり、文明開化の新事物を詠いました。

昭和五十年(一九七五)、開宗八百年を記念して、約十メートルの高架柱上に本堂を新築し、市内でも珍しい建造物の寺院となりました。



「神奈川駅中図会 一里塚三宝寺飯綱社之図」横浜市歴史博物館所蔵

埋立と高島嘉右衛門

「歴史の道」には、関門跡から旧街道を離れ、この街道と並行して丘の上を通り青木橋に至る、もう一つのルートがあります。静かな山の手の坂道を抜けて行くと、すぐ下に旧街道を見おろす丘の上に出ます。

鉄道用地の埋め立てに力を尽くした横浜の実業家が、高島嘉右衛門です。嘉右衛門は、請負業を始め、学校・ガス会社・芝居小屋などを経営し、高島易断を創始するなど多彩な活動をした人物です。

彼はこの丘の上から埋め立てを指揮

本覚寺

坂道を下っていくと、本覚寺の山門前に出ます。

開港当時、アメリカ領事館に充てられたのが、この本覚寺。神奈川領事であったドーアは、庭の松の枝を払い落とし、この木の上に星条旗を掲げたといいます。さらに、この寺の本尊を板囲いで覆い、山門をペンキで塗り、日本人の立ち入りを禁じたといわれています。

安政五年(一八五八)日米修好通商条約締結に際し、アメリカ公使ハリスとの交渉にあたった全権委員・岩瀬忠震を記念する石碑が境内に建てられています。



「高島嘉右衛門の肖像」
横浜開港資料館所蔵

し、後年この地に住みました。そのため、埋立地は高島町、この丘は高島山と呼ばれるようになりました。現在の高島山公園には、嘉右衛門を顕彰する「望欣台の碑」が、そのすぐ西の住宅地には「高島易断の碑」が立っています。

やがてこのあたり一帯は埋め立てられ、古い「神奈川湊」から新しい「ミナトヨコハマ」へと姿を変えていきました。